

町内会広報

発行：玉川学園町内会 会長 服部知行

☎ 725-0438
 🌐 <https://tamagawagakuen-chonaikai.net>
 📧 t-chonaikai194@bz03.plala.or.jp

一特集一 2021年定期総会

本年度の玉川学園町内会の定期総会は、新型コロナウイルス感染に収束の兆しが見えず、昨年同様に、一堂に会しての総会を取りやめて、「書面総会」にて開催することと致しました。

書面総会までの経緯と投票結果

昨年よりコロナ感染が拡大する中、残念ではありますが本年度も書面による総会とする旨をホームページおよび掲示板でお知らせいたしました。4月27日(火)に書面総会資料を各支部長経由で各戸回覧をお願いし5月11日(火)に書面表決書を回収いたしました。5月18日(火)に全ての集計が終了し、各議案共に賛成多数で承認されました。

投票総数および投票率

会員総数：3,783名 / 投票総数：3,154票 / 投票率：83.4%
 有効投票総数 3,057票
 無効投票総数 97票 (署名なし、賛否表明なし他)

報告事項

〇2020年度事業報告

【総務部】 書面による定期総会の取りまとめ、年間を通じて各定期会議の各部議題の取りまとめと「町内会のしおり」を全面的に改定。

【経理部】 経理部内規の改訂と一般会計と特別会計での定義の明確化。

【広報部】 「町内会だより」の隔月発行、町内会広報の発行、町内会各種事業に対する広報活動、ホームページの運営管理、「たまがわがくえん動植物さんぽ」の出版協力。

【防犯防災部】 防犯・環境パトロール、各地区での防災訓練実施、街路灯の点検、街頭消火器の点検、防犯カメラ管理、わんわんパトロール事業の推進、総合防災訓練(自宅でおこなう防災訓練)実施、防災アンケートの実施分析。

【環境部】 善意の傘の運用、ベンチの維持管理、資源集積所の管理、資源回収事業の実施。

【コミュニティ部】 新生コミュニティ部として新たな活動を開始。地域のコミュニティ活性化に向けた検討を進める。また各地区で行われている地区活性化事業についても書面報告しました。

〇決算報告・会計監査報告

決算報告は高橋眞喜子様と亀岡昌子様の会計監査により預金通帳・諸帳簿ならびに諸伝票の詳細な監査が実施され収支及び財産管理について、正確かつ妥当であることが認められました。

決議事項

〇2021年度事業計画

事業計画と「方針と活動の進め方」は町内会活動の基本を定めたものです。以下の別枠に記載しております。

〇2021年度各部及び地区の事業計画、および一般会計・特別会計予算

各部(総務部、経理部、広報部、防犯防災部、環境部、コミュニティ部)からそれぞれの事業計画及び一般会計予算、特別会計予算が提起され承認されました。各地区においてはコロナ禍の状況を注視しながら可能な限り地区活性化の事業を実施して参ります。特に昨年度発足致しましたコミュニティ部は各地区のコミュニティの醸成に向けて活性化事業を推進して参ります。

〇会則・細則の一部改訂について

現在の会則・細則の一部を下記の通り改訂致しました。

- ・会則第19条1項の総会開催時期を実務作業に合わせ、「毎年4月」から「5月末迄」に変更
- ・細則第3条1項を「立候補及び推薦の届け出の時期を1週間とし、その日を総会の開催通知に明記する」に変更
- ・細則第4条2項の各地区の選出の幹事候補の届け出の期日は細則3条の1項に同じに変更

改定後の詳細に就いては、「玉川学園町内会会則」(2021年4月改訂版をご覧ください。)会則は事務所にございます。

〇2021年度会計監査の選出について

本年度は会計監査の改選期にあたる為、4月23日(金)選挙世話人代表、佐藤峯夫様立ち合いの下で立候補者、推薦者を確認し、候補者を選出致しました。候補者については、書面総会で賛否を求め石田嗣子様(第七地区)、白岩敬信様(第三地区)が選出されました。

2021年度事業計画 方針と活動の進め方

「人にやさしい安心して住むことのできる明るいまちづくり」の推進と「だれもが歩いて豊かな景観を楽しめるまち」を目指し、住民の声を行政に反映させるとともに、住みよい環境の整備、促進に努めます。

- (1) 防犯意識の高揚をはかり、防犯・環境パトロール隊の活動を推進し、安全・安心なまちづくりをめざします。
- (2) 防災意識の高揚をはかり、自主防災隊の活動を推進し、災害に強いまちづくりをめざします。
- (3) 「混ぜればごみ」「分ければ資源」。廃棄物減量と資源物の活用に取り組み、循環型社会の推進をめざします。
- (4) 「広報」「町内会だより」および「ホームページ」を通じて、地域の情報を共有し、会員相互の連帯をすすめます。
- (5) 関係諸団体とも連携して、子どもから高齢者まで広く参加できる集いを企画実践し、交流を深めます。
- (6) 会員の高齢化、環境の変化など、地域社会が抱える課題の解決に向けた取り組みをすすめます。
- (7) 玉川学園町内会(第一地区～第八地区)の地区別活動推進による地域の活性化と近隣の絆の強化を図ります。
- (8) 玉川学園コミュニティバス推進委員会の中核として、会の運営に努めます。コミュニティバス(玉ちゃんバス)の運行に協力し、交通安全のモラル向上を目指して、啓発活動を展開します。
- (9) 玉川学園地区社会福祉協議会の運営を支援します。全ての住民が、地域の福祉課題を話し合い、助け合う活動を実践します。
- (10) 「こすもす会館」「さくらんぼホール」の運営について関係自治会と協働し、その中核として、両施設の円滑な運営に努め、広く会員の利用促進をはかり、地域コミュニティの場として寄与するよう努めます。
- (11) 町田市町内会・自治会連合会、玉川学園・南大谷地区協議会等の諸団体との情報交換を密にして、地域特有の課題に積極的に取り組んで住みやすい住宅地域としての発展をめざします。
- (12) 組織体制強化に備えて、「認可地縁団体」への取り組みを引き続き検討します。
- (13) 会員数の増加を目指し、地域活性化事業を活用して、具体的な検討をします。



会長挨拶

2021年度の町内会総会は、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響で書面によるものとせざるを得ませんでした。会員の皆様と直接顔を合わせて様々なご意見を伺う機会が得られなかった事は大変残念なことでした。高齢者に対するワクチン接種はかなりのスピードで進んでいますが、国民の大多数の接種が済むまではコロナ対策を継続することになり、町内会活動も大きな制約を受けることになります。こうした中では今一度町内会活動の原点に立ち返り、町内会のあるべき姿を考え今後の活動方針を決めていく良い機会になると思います。特に昨年新たに発足したコミュニティ部には、他の地域の自治会や数多くある各種団体といかに連携してこの地域のコミュニティを高めていく事に多くの期待が込められています。また、町内会の会員数は年ごとに減少しています。この原因をよく考え、高齢者の脱退を少なくし、若い方々の加入を促進させる方法を見つけて行かなければなりません。この様なことを見直していきたいと考えています。

新型コロナウイルスで変化してしまった日常を受け入れ、新たな活動のスタートとなる一年にして行きたいと思います。会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



会長 服部知行

玉川学園地区自主防災隊 隊長挨拶

玉川学園第一地区自主防災隊 隊長 岩崎けい子

第一地区は小田急線沿いから南大谷、本町田に隣接した南北に細長い5支部で構成されています。このような地区ですから防災倉庫がある玉園台児童遊園に集合することは大変です。そこで各支部の一時集合場所にミニ防災倉庫を設置することにしました。現在三箇所を設置済みです。あと一箇所確保し支部ごとの防災訓練を強化しようと思

います。12年続けてきた恒例の地区防災訓練も2年前から在宅避難＝ローリングストックの推奨＝で防災食の作り方が加わり充実してきたと思います。『我が家は無事』の白いタオル運動も6年続き、みなさまにご理解をいただいております。避難者カードも役員の方に配布して5年になりました。有効活用がないほうが嬉しいですね。防犯・防災・環境パトロールは毎月、支部の輪番制で地域の安心安全を見守っています。わんわんパトロールの推進も増えて自主防災隊は盛り沢山です。これからは、地区内にある集合住宅(マンション等)に住む方々との関係づくりが必要だと思

玉川学園第二地区自主防災隊 隊長 木村彰男

います。皆様にお知恵を拝借し、住み良い第一地区を目指してがんばります。

大規模な地震の発生や想定を超える豪雨で被害が生じ始めた時、本格的な救援が来る前に近隣の力でできる手だてを講じるのが、自主防災隊の役割と考えています。毎年多くの人が防災委員や隊員になり、備品操作などを経験することで、いざと言うときに馳せ参じてもらえるよう自主防災隊を充実させたいと思

玉川学園第三地区自主防災隊 隊長 遠江義智

います。第二地区は二つの防災倉庫があり、出動拠点になります。高台のこども広場は、いつき避難もでき、さまざまな備品、什器や食材を備えています。平日の場合は幼児や児童とのすみ分けにも配慮します。低地の商店街のポケットパークは井戸水の運搬用具や近くには消火設備などもあり、応急的な対処ができる備品を揃えました。また各班の隊員が、どの時点で何をすべきか自覚できるよう手引書を作っておき、迷わないようにしたいと思

玉川学園第四地区自主防災隊 隊長 松澤武陽

います。昨年度はコロナ禍で思うような活動ができませんでした。そのような中で第三地区自主防災隊では、特に次の2つについて取り組みました。①在宅避難の推奨②『誰もが防災倉庫の内容を知っている、使える』をテーマに活動しました。今年度も引き続きその2点を推進していきたい。具体的には、昨年11月7日(土)に第三地区防災訓練を実施し、ポリ袋調理を紹介しました。実演を交えながら、貴重な水をなるべく使わない調理方法やポリ袋でどのような調理ができるか等について紹介しました。とても盛況でした。また、防災倉庫の備品を倉庫から出して陳列して紹介したり、実際に住民の方に発電機を動かしてもらったりしました。同時に、在宅避難において自宅に備えておく便利な物品の紹介や物品と一緒に購入場所や値段等もつけてディスプレイしました。品物を手に取って確認する方も多くあり、参考になったと言って、購入場所や値段を書いたカードを持ち帰る方も多くありました。

今年度第四地区では、住民の皆さんの声を大切に『ひとりの100歩より100人の一歩』の精神で防災活動に取り組みたい。一昨年、防災意識調査を地区独自に実施し、防災についての声を集約、意見交換の場として防災交流会を実施、また、調査で期待が高かった内容をふまえて防災講習会を同日に行いました。この経験を今後に生かしたい。さらに、町内会で実施した防災アンケートもデータを活用させていただき、地区独自の調査結果と組合せ防災意識向上や地区企画に役立てたいと思

います。次に『いざというときのための第四地区の取組み』です。特に防災倉庫物品の整理は緊急の課題です。発電機など使用方法などを身につけ、震災時の段取りを整備し皆が協力して対応できる体制を整えていきたい。最後にコロナ禍の中、どの程度できるのか不透明で具体的な提案はこれからです。震災はいつ起きるかわかりません。他地区の経験にも学び、できることを着実にすすめてい

玉川学園第五地区自主防災隊 隊長 元木昭一

います。隊長になって3年目となり第五地区の状況もようやく把握し始めた所です。近年は自然災害が頻繁に発生し被害も大きくなっています。今までは大地震(震度6以上)の対策をメインに活動してきましたが、今後は大地震を踏まえながらも台風や大雨等の風水害を考えていかなければなりません。7月初めの熱海市の土石流災害発生を見ても傾斜地である玉川学園地区も似たような地域となっています。災害は何時・何処で誰の身の上に降りかかるかわかりません。減災(災害を防ぎ減少させる)を一人一人が考えることが必要な状況となっています。この減災には皆さんの知恵や協力が大きな力となります。貴方自身の安全や御家族の安全を考えると減災に繋が

り、これが地域の安全に繋がります。町田市からの自主防災組織補助金(救助用具や備品の購入にあてる)は町内会の入会戸数で支給されます。町内会に入ること

玉川学園第六地区自主防災隊 隊長 島倉正美

ことで災害時の生活が少しずつ改善されます。また、第五地区では毎月第3土曜日の10:00なかよし公園防災倉庫前に集合して地区内の環境/防災パトロールを行っています。ぜひ参加して自分の街を安全な街にしましょう。

今年度で自主防災隊長就任6年目を迎えます。この間、第六地区では、みんなの防災フェアや安否確認訓練(白いタオル出し)などを通じて、防災意識の啓発と防災資機材の操作技術の普及・向上に努めてきました。しかしながら、2020年10月に実施した防災アンケートの結果から、第六地区においても防災意識の啓発が今まで以上に必要であると認識しました。例えば、第六地区では家具類の転倒・移動・落下防止対策(家具転防止)が不十分と答えた世帯が33.6%もありました。震災時の死亡や負傷の主な原因が家具などの転倒であることから、家具転防止の推進は、喫緊の取り組みとなります。

更に、安否確認訓練(白いタオル出し)に毎年参加していると回答した世帯は72.9%でしたが、AED心肺蘇生訓練に参加したことがある世帯は43.9%、スタンドパイプによる消火訓練では21.8%という結果でした。発災時には、住民自らが救出救助や消火活動を行わなければならない、これらの活動に必要な知識や技術の普及・向上に努めることを改めて決意いたしました。

防災は、地域住民の協力があって成り立つものです。今後とも、自主防災隊の活動へのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

玉川学園第七地区自主防災隊 隊長 久恒満寿子

防災は、地域住民の協力があって成り立つものです。今後とも、自主防災隊の活動へのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

新任の隊長です。防災資料から、阪神淡路大震災後に自主防災組織が全国に作られ活動している事、大震災後の教訓として道路などの崩壊・人手不足・状況把握に手間取るなど様々な要因で公的機関による救出活動が遅れた事、それに代わり近隣住民による救出活動で多くの人たちが助けられた事を学びました。

「被害を最小限に留める為に、自分たちの住んでいる地域を自分たちで守らなければならない。」ということの大切さを強く感じました。

第七地区は、主に玉川学園7丁目と8丁目の一部からなり、起伏の多い地域です。第七地区自主防災隊は住民とのコミュニケーションを大切にす

ため、毎月2回、第一班と第二班に分かれて防犯・防災パトロールを行い、夏期と冬期には合同パトロールを行っています。また、安否確認の為に「白いタオル出し運動」も続けていきます。

多くの地域住民が参加できる地区防災訓練、防災勉強会などの取り組みや、防災倉庫の充実などを地域の皆さんと力を合わせて進めていきたいと思

玉川学園第八地区自主防災隊 隊長 下山洋一

います。経験のある諸先輩のもとで防災活動に取り組んでまいります。

私たちの第八地区は、玉川学園地域全体からみると南西に位置し南大谷地域に隣接する玉川学園8丁目と東玉川学園4丁目の地域です。この地域は、住宅が増える一方、高齢化も進み、急傾斜の狭い路地などが多く、震災による家屋の倒壊や地滑り、延焼火災、また水害の際は低い土地での浸水の可能性がある地域です。指定避難施設としては、南大谷小・中学校が近く、近隣の南大谷町内会等と合同で総合防災訓練を開催しています。感染症対策等避難所の運営にも課題が多く、各ご家庭での災害に対する備えが大切だと感じます。災害時には自主防災隊を中心に皆さんの協力が何よりも大きな減災に繋がります。大災害の発生が叫ばれる昨今、お住いの地域を良く知り防災訓練や地区で開催する防災勉強会などに是非ご参加下さい。

2021年度 役員・幹事

- 会長 服部 知行
- 副会長 菊地 隆男
- 副会長 西崎 則江
- 副会長 田代 敏行
- 副会長 三宅 俊剛
- 総務部部长 田代 敏行
- 経理部部长 伊藤 宏
- 広報部部长 大賀 容子
- 部員 西崎 則江
- 部員 菊地 隆男
- 部員 島倉 正美

- 防犯防災部部长 島倉 正美
- 部員 近藤 春光
- 部員 遠江(トウジ) 義智
- 部員 島田 恵子
- 部員 古海(カミ) 博久
- 部員 山下 和泰
- 部員 大友 あや子
- 環境部部长 中島 勝雄
- 部員 木村 彰男
- 部員 安田 百合
- 部員 豊島(トシマ) 多江
- 部員 渡辺 俊朗

- コミュニティ部
- 部長代行 古河(コカ) 博
- 部長代行 藤澤 紀一
- 部員 船山 行雄
- 部員 豊間根(トヨマネ) 滋
- 部員 伊藤 英一
- 部員 緒方 朋子
- 専門員 鈴木 信隆
- 専門員 本田 亮

- さくらんぼホール
- 専任幹事 藤本 義信
- 専任幹事 山田 充子
- こすもす会館
- 専任幹事 後藤 美知子
- 専任幹事 澤村 加奈子
- 会計監査 白岩 敬信
- 会計監査 石田 嗣子

※○の数字は地区長
※●の数字は地区長代行

編集後記

本誌は町内会の活動をご理解していただく為に書面総会の議題等の詳細および各地区の自主防災隊長の記事を掲載しております。地域住民の方々と自主防災隊の連携を深める一助となれば幸いです。広報部一同

ご質問、ご感想等は

お名前をご記入の上書面、FAXまたはメールで町内会事務所までお寄せください。※お間違のないようご注意ください。

玉川学園町内会「広報部」宛

〒194-0041 町田市玉川学園 2-19-5

FAX 725-0438 ※お電話での対応はお受けしていません

メール t-chounaikai194@bz03.plala.or.jp